

町指定文化財

16 木造 やくし によらい ざ ぞう 薬師如来坐像



春木字南岡ノ上の薬師山にあった薬師堂の本尊でした。薬師堂とともに江戸時代末期頃に、円盛寺境内に移され、現在は本堂脇壇に安置されています。

坐像本体は桧の寄木造りで、地肌は柾目を浮出させた技法を用いていることから、白木仕上げであったと考えられます。

胎内銘は見当たらないが、肉髻が高く大きいこと、眼が彫眼であること、衣文の線が少なく彫が浅いこと、相好が円満であることなど平安時代後期の特徴をよく表しています。